

(2)調査結果 <詳細>

①北方領土視察前、視察後の北方領土問題に対する考え方

視察前:北方領土には無関心で、他人事の問題

- 参加者は北方領土問題という単語を知っている程度の知識しかもっておらず、この問題は「他人事」であり、重苦しいテーマで敬遠するものとみられていた。また、自分を含め、若者の北方領土問題についての意識は低く、さらに低下していることも問題意識としてあがってきた。
- 北方領土についての知識レベルは低く、「北方領土問題」という言葉、北方四島があるという程度にとどまっている。歴史や現状についての知識はほとんどなかった。

視察後:北方領土が現在ある問題であるという意識が醸成された

- 今回視察に参加することで、地理や歴史、元島民や根室で活動に関わる人の意見に接することで、北方領土問題の内容を理解し、無視できない問題、日本人として知っておかなければいけない問題という認識に変わったとの感想が多くみられた。「元島民や根室の人との気持ちの差を知った」「自ら調べる意識の芽生え」や、「若い世代への認識を広げるべきだと思った」などの感想が挙がっている。いろいろな活動がなされているが、自分たちはそれをまったく知らないということは懸念点として捉えられた。
- また、ロシアとの異文化交流に取り組んでいる事実を知って、単に返還を訴えるだけの取り組みではなさそうだという認識も持ったようだ。返還を訴える運動と捉えていたが、現在居住するロシア人との交流もあり、返還要求以外の解決策があるのでは、ということを考えるきっかけとなっている。「返還されたとして、現在住んでいるロシア人はどうなるのかという疑問が浮かんだ」といった意見もだされた。
- 北方領土を実際に目にすることは、その近さを実感するきっかけとなった。

<個別意見>

a.北方領土問題の捉え方

<p>1 A:女性/23歳/学生/福岡県</p>	<p>ここに来るまでは他人事のように思っていたが、交流などで話を聞くにつれて、<u>より身近な問題だと認識した。</u> 1日目 間近に見て、他人事ではないなと思いました。私より 幼い学生が、SNSを通じてロシアの人との交流を取っていたり、ビザなし交流をしてコミュニケーションを取っていたことには、とても驚きました。様々な活動を通じて、返還してもらおう！という強い気持ちがあるんだなと感ずることができました。 2日目 とても充実した1日でした。元住民の方の話や、かかわりのある人との交流でもっと詳しくなり、疑問に思っていたことも解決できました。また、一番近いところまで行けて、ビデオなどで言っていた、一番近くて遠いというのを直接感じられたので、もっともっといろいろと調べ、情報発信するとともに、自分なりに調査を行いたいと思いました。</p>
<p>2 B:男性/23歳/学生/岩手県</p>	<p>領土問題がすごく身近な存在に感じた。敵対意識ではなく、民間レベルでの交流があるということで、柔らかな印象になった。 1日目 朝からの移動で疲れたが、北海道の雄大な景色を楽しむことができた。北海道は3回来ており、根室は初。北方領土に対する理解を深める良い機会だと思うので、学んだことを地元を持ち帰り、話せるようになりたい。 2日目 今日は北方領土に関する理解が深まったと思う。民家が少なくことや冬場で観光客が少なく、人気がないのが残念。ただ、お年寄りよりは若い人が多く、領土問題やその歴史を受け継ぐことは可能だと思った。若い人には領土問題を考える機会が少ないと思った。</p>
<p>3 C:男性/37歳/会社員/茨城県</p>	<p>参加前までは領土問題ということで中国・韓国との間のような重苦しいテーマかなと思っていたが、参加してみたら、返還ということは大事だが、現在は交流ということで、テーマが今まで1本だったのが2本に変わってきているのかなと感じた。政府の立場では返還が大事だと思うし、実際住んでいる民間人からすれば交流が大事。非常に意識が変わった。 2日目 2日間を終えて、参加前→参加後で、自分の中での考え方に大きな変化があった。この考え方が他の参加者と比較した結果、どのように変化するか？3日目のワークショップを確実に有効活用し、今後につなげていきたい。</p>

II 調査活動

3. 次世代層を対象とした視察調査

<p>4 D:男性/31歳/会社員/京都府</p>	<p>ここに来るまで四島の名前は知っているけど、どんな並びだったか？みたいな知識しかなかった。ここに来て歴史的な知識も知ったし、現状、地元の方がどういう風に思っているかがよくわかった。<u>自分の中でも領土問題は身近な問題なんだなという意識が生まれてきた。</u></p> <p>1日目 北方領土の今日までのいきさつ、歴史的観点からの本来あるべき姿など、おそらく普通の生活では知ることも興味を持つこともなかったであろう事柄を知ることができ、本当に有意義だった。改めて、四島返還は当然であると感じたが、では四島で暮らしているロシアの方々はどうなるのであろう？という疑問が新たに生まれたので、残りの2日間で答えについて考えたい。</p> <p>2日目 これまで自分は北方領土に対して、無意識だったのではなく、無意識を装っていたのだと感じた。四島返還というゴールへの道順に、どうしても見たくないものや考えたくないものがあり、それから目をそらしていたのだと思う。今回このような機会をいただき、貴重な経験をさせていただき、改めて北方領土問題に向き合う自信と覚悟が生まれたのではないと思う。この気持ちをより多くの人に伝え、より大きな輪にしていくためのタスキを受け取ったので、<u>今回見た景色、聞いた思い、実感した距離を広めていきたい。</u></p>
<p>5 E:女性/34歳/パート・アルバイト/福井県</p>	<p>ここに来るまでは全然知らないことがたくさんあって、ここに来て、実際不法占領をされていることを知った。日本の領土だったということがわかり、ここに来る前に比べて、考え方も変わった。</p> <p>1日目 初めて北海道へきて、北方領土を知れて、何も知らなかったんですが、段々と歴史がわかってきました。聞けば聞くほど、<u>占領されているのが、昔住んでいた方たちからしたら、かわいそう</u>になってきました。</p> <p>2日目 なかなか強制的に取り返すことは難しいことだと思いますが、私は <u>日本の国というのは優しすぎる</u> と思いました。なので、他国に舐められることがあるので、もう少し強引にしてもいいのかなと感じました、<u>一日でも早く取り返せるように、地元へ帰ったら本当の話を伝えていきたいです。</u></p>
<p>6 F:女性/30歳/パート・アルバイト/愛知県</p>	<p>北方領土と聞いたことはあるけど、一体何？という程度だった。実際に見て話を聞いていたら、確かに存在するものなんだと改めて分かった。近いと聞いていても、<u>実際距離がどれくらいなのかわからなかったが、目で見て確かめることができた。</u>存在がわかったことは自分にとって大きい。</p> <p>1日目 意識していなかった分無知でしたので、想像もできませんでしたが、<u>直接自分の目で見て感じる</u>ことができ、<u>何もわからないままの私</u>のような人でもそれぞれ感じるものがあったり、そこで知ることができたり、とても良い体験ができました。ただ、お天気が良くなく、野付半島より先が見えなかったのは残念でした。</p> <p>2日目 とても濃い一日だったと思います。やはり資料だけでは理解しにくかったり、興味が出るまでに難しかったです。直接目で見て、お話を聞くことで、<u>今までの気持ちや考え方は全く変わりました。</u>なかなかできない体験をさせていただき、今日の行いがなければ一生気づけなかったことだと思います。</p>
<p>7 G:女性/27歳/専業主婦/大阪府</p>	<p>北方領土に対する意識、考えが全くなくて、学校で北方領土という単語をそういえば聞いたな、くらいだった。今回視察旅行に参加して、違った見方で北方領土について考えることができたかなと思う。</p> <p>1日目 北方領土問題について、本当に知らないことだらけだなと感じ、恥ずかしいです。しかし、あと二日あるので、<u>たくさん</u>の事を知り、経験させてもらい、<u>周りにも伝えていきたいな</u>と思いました。</p> <p>2日目 元島民の方が言われていたように、いつかは元島民の方がいなくなります。だけど、今回経験させていただいたことをまわりだけではなく、<u>後世に伝え、興味を持ってもらうことが、私ができることなんだと強く思いました。</u>「故郷に帰りたい」という言葉、元島民の方の願いが切なかったです。</p>
<p>8 H:男性/35歳/会社員/滋賀県</p>	<p>参加する前まではテレビとかCMで知るくらいだったが、<u>実際ここに来て歴史を学んだときは、返還してもらいたいという気持ちになった。</u>でも、実際の交流の様子を見て、返還だけではなくお互いにメリットのある解決策があれば<u>思った。</u></p> <p>1日目 北方領土に近いこともあるのですが、<u>いたるところに返還の看板があり、普段から関心を持っていることが自分の住んでいる地域では考えられないので驚きました。</u>全国にもっと北方領土の話題になるように、物産展と一緒に何かできると面白いかもしれません。</p> <p>2日目 本土から中間ラインの海域でしか漁業ができていないことが問題だと思います。どちらか一方だけで漁をするのではなく、<u>共同でできるような制度ができることを願っています。</u></p>
<p>9 I:男性/38歳/パート・アルバイト/東京都</p>	<p>北方領土という名前は知っていたが、来るまでは四島の名前を知っているくらいだった。北方領土問題という言葉はニュースで見て、<u>実際どんな問題が起こっているのかくらいしか知らなかった。</u>来てみて、至る所に北方領土返せという旗や石碑を見て、<u>重いところに来てしまった</u>と思ったが、内容は難しくて深く、2日や3日で覚えられるような内容ではない。<u>長い月日をかけて個人的に学んでいかないといけないという意識に変わった。</u></p> <p>1日目 僕自身の知識が浅いので、今日のテーマと引率してくださる方が居てくれた方が <u>理解力、浸透力、知識力を引き出せた</u> と思いました。せっかく参加させていただいたので、主催者側も参加者側も「<u>楽しく深く学べた</u>」と心から言えるような視察にしたいです。</p>

b.意識変化のポイント

1	A:女性 /23歳/ 学生/福 岡県	<p>1日目 資料を見たので、中学生の頃のあいまいな記憶に上書きされた。 この歳で、あまり北方領土について考えていなかったため、少しずつ意識するようになり、他人事ではないと思った。同じ日本内のことなのに、場所が遠いだけで関係ないと思っていた自分が恥ずかしいです。ロシアとの親交も少しずつ深めて、どうにかしようとしている取組など知れて、とても良かったです。明日でまた意識が変わるのかなと少しわくわくしています。</p> <p>2日目 地元住民の皆さんとの交流で、私は高校生とお話をさせていただいたのですが、高校3年生で北方領土についてスラスラと意見を言っていて、将来も北方領土に携わりたいと言っていたのを聞いて、私も学生なのになぜこんなに意識が違うのだろうと恥ずかしくなりました。住んでるところが遠いとはいえ、同じ日本内のことなのに・・・と思われ、もっと北方領土について学んでいく必要があると思ったのと同時に、情報の発信をより活発にしようと思いました。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ日本内での問題ということの再認識 ・ 視察調査だけで終わらず、自ら調べようという意識の芽生え ・ 同じ世代への情報発信をしようという強い意志 <p>パネルを見てもそうですが、元島民の方の話だったり、住民たちとの交流をすることでより詳しく情報をいただけたということが大きかったです。交流した高校生の意識の強さに驚き、将来的にも携わるということを知り、このままで終わらせてはいけなさと強く思わせられました。</p>
2	B:男性 /23歳/ 学生/岩 手県	<p>1日目 北方領土の基礎的な知識を深めることができた。来る前までは、中学校で勉強したレベルであったが、そのとき学習した歴史のほかに、日本とロシア人の相互交流が行われていること、元島民の方のお話をビデオで見て、当時の生活の大変さが伝わって来た。もし侵略の前のエピソード(プラス面での)があるなら聞いてみたい。</p> <p>2日目 今日は国後島、歯舞群島を見ることができたこと、元島民の方の講和を聞いたことで、北方領土を身近に感じる事ができたと思う。日本の領土問題の中でも、身近に考えることができると思った。普段の生活が忙しく、考える機会が少なかったが、これを機に少し考え、北方領土問題を周りの人から話すことを始めたいと思った。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北方四島の領土問題が身近な問題であるということ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 納沙布岬、宿泊したホテルなど、根室内内各所から国後島や歯舞群島が見えたということ ・ そこまで敵対意識ではないこと <ul style="list-style-type: none"> ➢ ビザなし交流は知っていたが、VTRを通じて、相互の文化交流が行われており、理解しあえる環境作りとなっている ・ 若者への北方領土の関心が限定的であること <ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨日の懇親会で高校生に聞いたら、このような感じであった。近いとはいえ、関心は減っているのでは。参加人数も多いというわけではないと思った。
3	C:男性 /37歳/ 会社員/ 茨城県	<p>1日目 領土問題について、中国・韓国との問題のような印象を持っていたが、1日目を終えて、問題としては大きな問題だが、異文化交流に取り組む姿勢を見て、大きく印象が変わった。2日目は、実際の元島民の声を聞き、より深くしていきたいと感じた。</p> <p>2日目 過去の暗い歴史は消すことのできない事件ではあるが、現在の世代で主となっている活動している人々は、新しい方向性を見出そうと活動している。政治の面と、人と人の関係の面、2つの見方があり、それに対して自分はどちらの立場で活動すべきか、正解が見出せない非常に難しい問題であると感じた。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査参加前は、領土問題とは政治的な取り組み、対応のみが主であると思っていたが、調査に参加し、元島民の声を聞き、地元住民との会話をすることで、当事者同士の間では、領土返還よりも交流に重点を置く姿勢を感じ、意識が大きく変化した <ul style="list-style-type: none"> ➢ ビザなし交流、異文化交流の推進による変換への主張

4	D: 男性 /31 歳/ 会社員/ 京都府	<p>1 日目 私は北方領土が今のような状態になったいきさつを知らなかった。というよりも、少し勘違いをしていたことに気付いた。<u>ロシア(旧ソ連)の不法占拠であるという事実を認知していない方も多いのではないだろうか？</u>官民一体となって、返還運動に取り組んでおられるが、もっと <u>全国民が正しい知識を身に着け、考え、行動しなければならない</u>と思った。</p> <p>2 日目 昨日よりも天気良かったので、よりはっきりと北方四島の確認と距離の近さを感じた。クルーズで納沙布岬と貝殻島の間点に行った時、こんなにも目と鼻の先の距離なのに、自由に行き来することができないもどかしさや理不尽さを感じた。<u>国民一人一人が正しい知識を持って、向き合う問題だと改めて思ったが、納沙布岬周辺にあった政治団体の石碑や立札が、どうしても多くの国民の想いに水を差し、無関心を装わせているのではないか</u>と思った。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民一人一人の関心度、知識(意識)が、やはりまだまだ低いと感じた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 実際に自分の目で四島を確認して、近さに初めて気づき、この距離なのに自由に行き来できないもどかしさを体感したから。 ・ 四島返還は当然だとは思っていたが、では実際に <u>現在住まれているロシア人の方々はどうなるのか？</u>という疑問が生まれた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 交流の様子をビデオで見たら、話を聞いたりして、<u>未来の展望としてどのような形が望ましいのか、少し悩みました。</u> ・ 若い世代にも友好的に広げていくべきだと思った。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 若い世代の方のお話させていただき、<u>面白い企画もされているけど、こちらにはなかなか伝わってこないことが多かった。</u>
5	E: 女性 /34 歳/ パート・ アルバイト/ 福井県	<p>1 日目 日本の領土だったのだから、<u>早く返してほしい</u>と思いました。でも <u>現在もロシアの人が住んでるし、中々難しい問題</u>だと改めて思いました。どっちも公平にまともっていくといいです。</p> <p>2 日目 私は北方領土という名前しか知らずに今回来ました。戦争で負けて、日本の領土をロシアにとられた、ぐらいに思っていました。けど実際は <u>不法占拠</u>だと聞いてびっくりしました。やりきれませんでした。一日も早く日本に帰してほしい。国はなぜ強制的に返してもらわないのか不思議です。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元島民の話や北方館での話を聞き、今まで北方領土は日本が戦争で負けてロシアに取られたと思っていたことが違っていたので、<u>ここへきて正しい知識が学べてよかった</u>と思いました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本の領土だったこと。ロシアに不法占領されていたということ ・ 今回いろんなところを視察させていただき、海での生き物や鳥、花など北方領土の周りには自然がいっぱいあり、<u>もっと普通に誰でもいけるといいのにな</u>と思いました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>パノラマクルーズで島のまわりが自然豊かだったこと</u> ・ 不法に占領され、日本人が強制的に帰らされ、もともと住んでいた方たちは、地元に戻りたいということもなかなか、一日でも早い解決を望みました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>ロシアにより不法占領だったこと</u>
6	F: 女性 /30 歳/ パート・ アルバイト/ 愛知県	<p>1 日目 今まで意識していなかった分、興味もなかったので、今回、実際に自分の目で島を見るということで、<u>もっと知りたい</u>と思えました。私の住む地からは遠く離れているため、普段生活していてもなかなか、この問題に触れることはありませんが、<u>日本で起きている問題なので、無視はできない</u>と思いました。</p> <p>2 日目 資料だけでなく、実際に自分の目でみることを感じる、気持ち・想像はとて大きくなりました。また、お話を耳で聞くことで頭に入りやすく、理解もしやすかったです。今まで意識していなかった分、<u>知識もなく、気にもしていませんでしたが、直接見聞きすることで興味が沸き、何よりも気持ちが大きく変わりました。</u>まだまだ知らないことばかりなので、<u>もっと知りたい</u>と思えました。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北方領土がどこのどのように存在するのか、意識して見れるようになった。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>資料や映像、館長さんや元島民の方々の説明</u> ・ <u>元島民の方や根室の方の気持ちと同じ日本でも離れたところに住む私たちの気持ちの差を知った。</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>北海道根室の方々の今の気持ちや、おじいさま、おばあさまの気持ちを聞いて</u> ・ 近いと聞いていても、地図で見ただけでは分からない実際の距離や大きさ、静けさを感じた。 ・ 岬から見た島々や、クルージングで実際に近くまで行って、肉眼ではっきり見て
7	G: 女性 /27 歳/ 専業主婦/ 大阪府	<p>1 日目 学生時代、教科書で北方領土について学んだりすることがありましたが、当時はただ覚えるだけで、先人の人たちがどのような生活をし、なぜロシアに占領されているのか、考えたこともありませんでした。今日話を聞いて、<u>びっくりすることが多かった</u>です。日本人としてこの問題を知っておかなければいけないことなだを感じました。</p> <p>2 日目 <u>実際に、北方領土が見えて、近いな！</u>と驚きました。目視でも船が見えたので、望遠鏡を使ってみると、日本だけでなくロシアの巡視船も……。こんなに近い海でも、ピリピリしていて怖かったです。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にはあまり関係ないと思っていましたが、思っていた以上に北方領土問題とは深く難しいなと感じました。この2日間、いろいろな経験をさせていただいたことで、以前とは違った見方で関心が持てると思います。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>北方領土に関する施設や元島民の方、実際に目で見たことが考えさせられたきっかけ</u>

8	H: 男性 /35 歳/ 会社員/ 滋賀県	<p>1 日目 参加する前は、TVCM など「北方領土の日」を知るきっかけとなった程度で、特に何かを考えるということはありませんでした。図書館で北方領土に関する本を簡単に流し読みしたくらいです。別海北方展望塔のパネルや像を見て、現地の人は常に関心を持っていることが分かりました。</p> <p>2 日目 ソ連が北方領土を占領していった経緯を知り、理解した上で返還しなければいけないという気持ちが更に強くなりました。全国で返還要求運動が行われていることを知ったので、何かしらの形で地元での運動のお手伝いができればと思いました。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加させていただく前は、テレビ CM など「北方領土の日」というものがあると知った程度で、根室に来たときは、ここまで大きな運動をしているとは思いませんでした。 ・ 歴史を学び、返還というものが必ず達成しなければならないものと感じる反面、現在の交流の様子を見て、お互いにメリットのある方法で解決できる方法を見つけなければならないと思いました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 歴史を学んだことと、現在の交流の様子を見たこと。
9	I: 男性 /38 歳/ パート・ アルバイト/ 東京都	<p>1 日目 別海北方展望塔にて 天候は晴れていたが、国後島は見れなかった。叫びの像をはじめ、北方領土の歴史を少し勉強できました。 移動中のバスの中での DVD にて 北方領土の返還運動の啓発に関心が強くなりました。世代を超えて、現代の学生、政界が地道な活動をしていることに改めて北方領土視察の意味を紐解きました。</p> <p>2 日目 初日に比べると、二日目は楽しい視察にしようってことだった。北方領土問題は今回の視察で考え方が変わった。変わったというより変化が出た。今後はどんな些細なことにも、関連性があるならば、率先して北方領土問題と根室を意識してみる。</p> <p>意識変化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加させていただいて感じたこと、北方領土問題というテーマに対して他人事だったこと、実際に根室に来て、地域の方々との交流、建設物の見学や話を聞いて、まず自分が興味を持つことと思いました ・ 今後どうしたらいい？というテーマを探すより、まずは <u>自分がこの問題に触れて関心を持てる分野から学んでいき、その学んだことを自分の得意とする分野で広めていくことが大切</u> だと思いました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ テーマが大きすぎて、ほんのわずかしが学べなかったですが、北方領土と日本の現在の生活と交友関係に触れて、知ってから、少しずつ紐解いていけると、意識が向上すると思いますし、何より楽しく学ぶことが重要なのかなと思いました。今回の視察ははじめての一歩となりました。